

開講年度	令和 7 年度		開講課程	博士後期課程
授業名	基礎薬科学特講			
開講キャンパス	伏虎	教室	基礎教育棟 3 階講義室 3 中講義室 3 0 3	
科目区分	専門科目	配当年次	1 年次	
必修・選択の別	選択	単位	1 単位	
対象学生	－	使用言語	日本語	
キーワード	生体内化学反応、有機化学、化学物質・健康被害、天然有機化合物、代謝・栄養			
担当教員 （下線：科目責任者）	医			
	薬	教授 田村 理、教授 平田収正、教授 相馬洋平、准教授 田中千晶、 <u>教授 岩倉 浩</u> 、教授 中津 亨		
授業の概要	基礎薬科学関連領域における、タンパク質化学構造論、有機薬化学、衛生化学、ケミカルバイオロジー、代謝栄養科学の基礎的事項から最新の知見まで幅広く学び、高度な研究力の育成を目指す。			
到達目標	□タンパク質内化学反応について理解し、説明できる。 □薬学における有機化学の先端的役割について理解する。 □薬学的課題としての化学物質による健康被害や環境汚染の現状と発生メカニズムについて理解し、説明できる。 □生物活性を示す天然有機化合物を利用して、生体内で起こっている未知のシステムやメカニズムを解き明かす方法について理解して、説明できる。 □代謝・栄養科学関連分野の基礎的事項から最新のトピックスについて学ぶ。			
授業計画	1. 5. ケミカルバイオロジー（田村 理／田中千晶／2 回） 【6/17 6限】 【7/1 6限】 生物活性を有する有用な天然有機化合物を用いて、生体内で作動しているシステムやメカニズムを明らかにする手法について具体例を交えて学び、基礎的知識を修得する。 2. 4. 衛生化学（平田 収正／2 回） 【6/17 7限】 【6/24 7限】 化学物質による健康被害や環境汚染について、国際的な動向も含めた現状と被害や汚染の発生メカニズムについて概説する。 3. 有機薬化学（相馬洋平／1 回） 【6/24 6限】 薬学における有機化学の先端的な役割について概説する。 6. 8. 代謝・栄養科学特論（岩倉 浩／2 回） 【7/1 7限】 【7/8 7限】 代謝・栄養科学分野の基礎的事項から最新のトピックスについてとりあげ講義を行う。 7. タンパク質化学構造論（中津 亨／1 回） 【7/8 6限】 タンパク質で行われる化学反応について、立体構造に基づいて概説する。			
授業の方法・形態	講義を中心とする。 遠隔会議システムを利用した同時配信を行う。			
使用するメディア	パワーポイント等によるスライド資料を使用する。			
成績評価の基準	授業への取組20%（発問に対する応答や発言内容、主体的・積極的な受講姿勢）及びレポート80%によりS（90点以上）、A（80～89点）、B（70～79点）、C（60～69点）、D（59点以下）の 5 段階で評価し、C以上を合格とする。			

授業時間外の学修に関する指示	教科書・参考書が指定されている場合は予習を行うとともに、各回終了後には復習を行うこと。そのほか、各担当教員の指示に従うこと。
オフィスアワー（学生からの質問事項等への対応）	担当教員により異なるため、希望する場合はメール又は電話により予約すること。
教科書・参考書	【教科書】特に指定しない。 【参考書】特に指定しない。